

## 慢性冠動脈疾患に対する侵襲的治療と保存的治療、全死因死亡に差なし

中等度以上の虚血性の慢性冠動脈疾患を有する患者に対する早期の侵襲的治療と保存的治療を比較した ISCHEMIA 試験では、中央値 3.2 年の追跡においては転帰に大きな差はみられなかった。死亡についての追跡調査は現在も継続している。本研究では、2021 年 12 月までに得られたデータに基づき全死因死亡、心血管死亡および非心血管死について中間評価を行った。

ISCHEMIA 試験の参加者は 5,179 例で、年齢中央値 65 歳、女性 23%、糖尿病 42%、駆出率中央値 0.60 であった。参加者を侵襲的治療群と保存的治療群に無作為に割り付けた。中央値 5.7 年の追跡期間中、557 例が死亡し（心血管死亡 343 例、非心血管死亡 192 例、分類不可能の死亡 22 例）、そのうち 268 例は延長追跡期間中の死亡であった。全死因死亡には群間差がなかったが（7 年死亡率：侵襲的治療群 12.7% 対 保存的治療群 13.4%、調整ハザード比 1.00）、心血管死亡については侵襲的治療群が保存的治療群より 7 年死亡率が低く（6.4% 対 8.6%、調整ハザード比 0.78）、非心血管死亡については 7 年死亡率は高かった（5.6% 対 4.4%、同 1.44）。

したがって、追跡期間中央値 5.7 年においては、慢性冠動脈疾患と中等度または重度の虚血を有する患者に対する早期の侵襲的治療は、保存的治療と比較して全死亡率に差はなかったが、侵襲的治療では心血管死亡のリスクが低く、非心臓管死亡のリスクは高くなることが示された。

出典：Circulation.2023 Jan3; 147(1): 8-19.